

JENESYS2020 日 ASEAN 東ティモール・オンライン交流 (Research for the synergy of FOIP and AOIP) の記録

1. 概要

【目的】ASEAN 諸国及び東ティモールの大学生・大学院生が、日本政府の推進する「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」および ASEAN 地域の推進する「インド太平洋に関する ASEAN・アウトLOOK（AOIP）」について理解を深めると同時に、アジア大洋州地域の協力や地域の繁栄に向けて、同世代の青年と意見交換することにより、FOIP への関心やお互いの連結意識を高めることを主目的に、本プログラムを実施しました。

【参加者】 ASEAN10 か国、東ティモール、日本の大学生・大学院生 計 108 名

※ASEAN10 か国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

【訪問地】 東京都、福岡県

【日程】

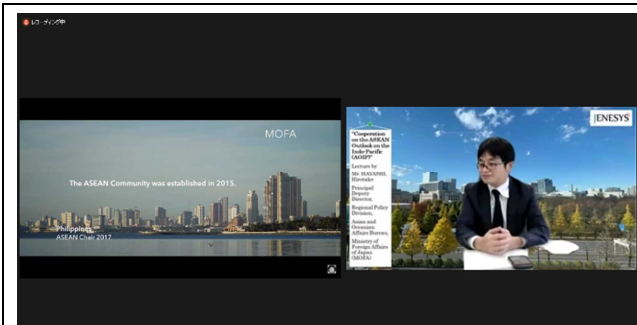
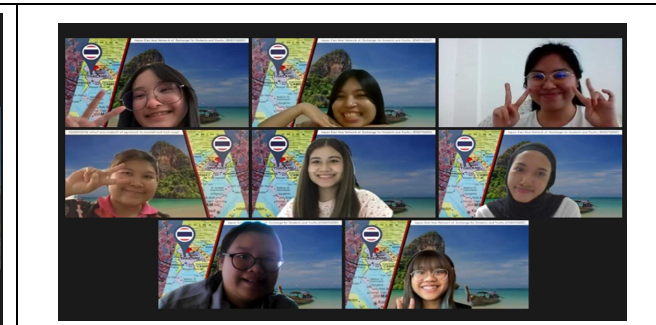
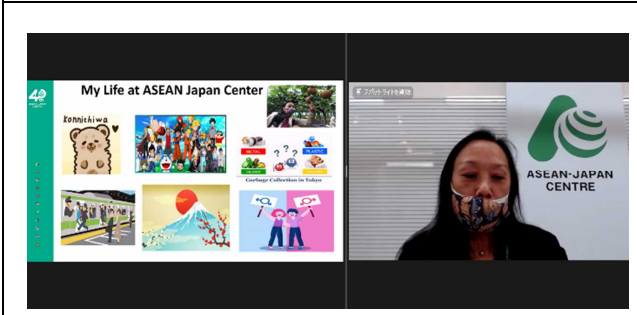
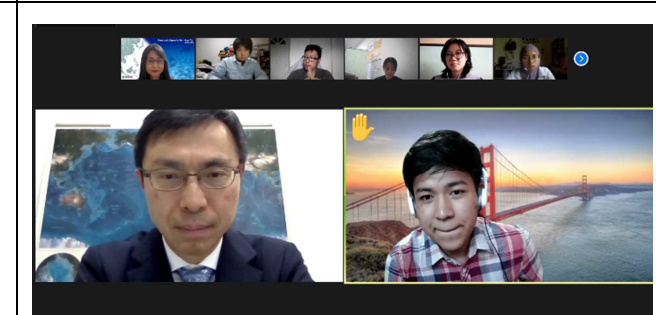
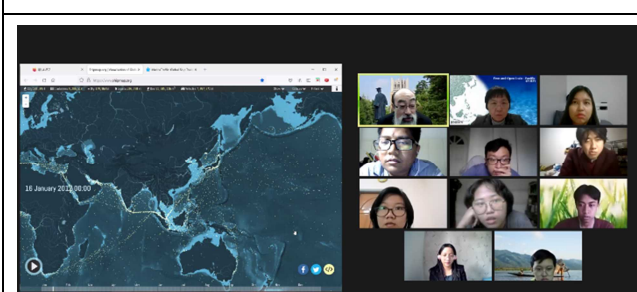
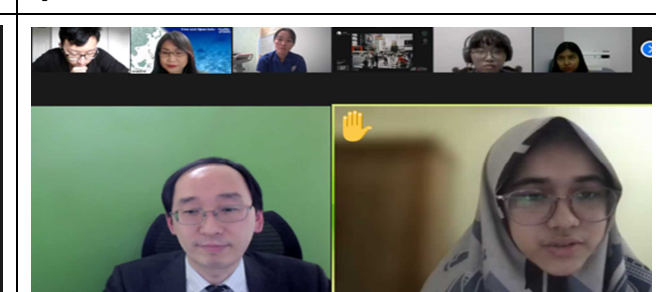
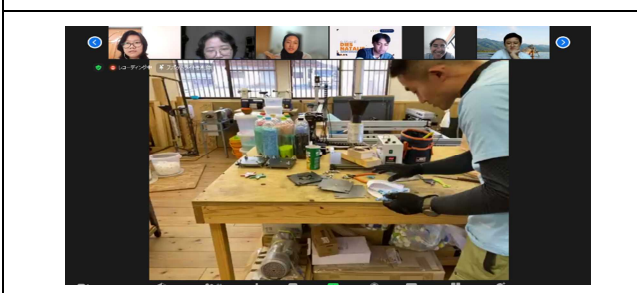
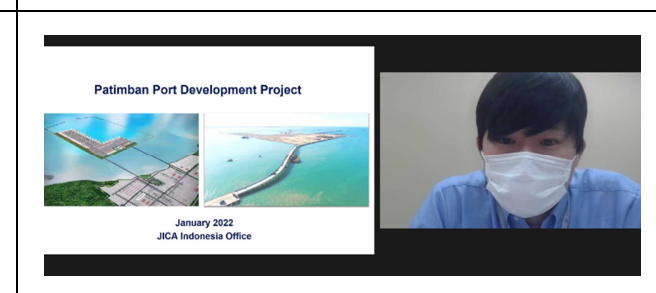
日付 訪問地	テーマ・内容	参加者の質問・反応
2021 年 12 月 10 日 東京都	【オリエンテーション】【ウェビナー・質疑応答】【グループワーク】 1. オリエンテーション① 2. グループ別交流（国別） 3. 講義： 「Cooperation on the ASEAN outlook on the Indo-Pacific (AOIP)」 講師：外務省アジア大洋州局地域政策参事官室 主席事務官 林 弘毅氏 4. オリエンテーション② 5. グループワーク（各国混成）	参加者は緊張した面持ちであったものの、カメラ越しに顔を見せメモを取るなど、熱心に聴講しました。参加者からは海洋法や地域の安全保障における若者の役割をどのように認識させていくか、国際法を海洋に適用する上での課題、気候変動緩和についてのアセアン諸国の活動をどう考えるかななどの質問が出され、一つひとつに対して講師から具体的な説明を受けました。講師からは、課題解決に果たす若者の役割の重要性にも触れられ、参加者への期待の表れとして印象に残った参加者が多かった様子でした。
2021 年 12 月 13 日 東京都	【参加者発表】 「自国にとって“海”が意味するもの」 1. 概要説明 2. プレゼンテーション（国別）	12 か国それぞれの国で“海”が果たす役割やメリット・デメリット等について、国別のグループに分かれ発表を行いました。参加者は各国の共通点、相違点を見つけると

	3. 質疑応答	同時に、どの国にとっても海が重要な働きを果たしていることを再認識する機会となりました。
2021 年 12 月 14 日 東京都	【ウェビナー・質疑応答】 テーマ：日本と ASEAN 地域の関係構築 1. ASEAN 諸国に活動拠点や事業を展開する国際機関の概要紹介 2. 国際機関日本アセアンセンター組織・国際機関従事者のキャリアプラン紹介 講義： 「日本アセアンセンターの活動について」 講師：国際機関日本アセアンセンター 調査・政策分析クラスター及び貿易・投資クラスター担当 ラファエリタ・C・カストロ氏 3. 質疑応答 4. グループワーク（国別） 発表計画と報告会準備について	ASEAN 諸国出身者が多く働く日本アセアンセンターによる講義を、非常に高い関心を持って聴講していました。参加者からは、同機関による政策分析・政策提言の実現状況、ASEAN 諸国のデジタル化において、誰もがアクセスできる状況を実現するためのアドバイス、海洋廃棄物への取り組み等、講義内容を踏まえた広範囲にわたる質問が出されました。 講義後のグループ活動では、今後のグループワーク・発信活動の進め方について熱心に意見交換がされました。
2021 年 12 月 15 日 東京都	【ウェビナー・質疑応答】 テーマ：海洋全般 1. 講義： 「日本の海洋政策とカーボンニュートラル」 講師：内閣府総合海洋政策事務局 参事官 佐藤 勝氏 2. 質疑応答	講師は FOIP 政策の推進にも携わった経歴を持ち、これまでの経緯も含め海洋の安全保障のための日本の取り組みについて紹介され、参加者は興味深く聴講していました。参加者からは開発途上国の再生可能エネルギーへの移行方法や課題、洋上の風力発電等の新技術に伴う負の側面と国際紛争への対応、自然災害による海洋の風力発電への損害防止のための研究開発等、幅広い質問が出されました。講師からは、どの質問についても、カーボンニュートラルを達成する上での課題解決は一国では成し遂げられるものではなく、国際協調の重要性が強調されました。
2021 年 12 月 20 日 東京都	【ウェビナー・質疑応答】 テーマ：連結性（EPA/TPP） 1. 講義：	日常では、アニメや工業製品等を通して日本に親しんでいる参加者にとって、データに基づいた日本とアジアの関連性や、複雑

	「日本と東南アジアの経済関係」 講師：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 鍋嶋 郁氏 2. 質疑応答	に絡み合う経済協定等が自国や地域に与える影響についての説明は大変興味深いようで、知的刺激を受けた様子でした。参加者からは自由貿易協定の負の側面、CPTPPへの中国・米国の参加の可能性やRCEPが日本に対してどういった機会を与えるのか、米中関係が日本やASEAN諸国に与える影響などについて質問が出され、世界の中で自国の立ち位置や将来の方向性についても考えを巡らせていることが伺えました。講師からはそれぞれに対して、非常に丁寧に回答がありました。
2021 年 12 月 21 日 東京都	【ウェビナー・質疑応答】 テーマ：法の支配 1. 講義 「海洋法・国際法と海洋環境の保護」 講師：東北大学大学院法学研究科教授 西本 健太郎氏 2. 質疑応答	参加者からは、東南アジアにおける海洋保護を目的とする地域協定締結の促進に必要なこと、陸上で発生した廃棄物が海洋投棄物のかかなりの部分を占めているが、違法に投棄を行う国に対しての対応策や、この問題が起きる根本原因、統一した法規制ができない理由など、国際協調ができない現状に対しての疑問を中心に質問が出されました。講師からは各国の利害が絡みあう問題の背景の説明と同時に、参加者のような若者が主体的に行動する重要性が強調されました。
2021 年 12 月 22 日 福岡県	【視察・質疑応答】 テーマ：法の支配 1. 視察 「TSUYAZAKIBASE CAMP から学ぶ廃プラリサイクル事業」 講師：SUYAZAKI BASE CAMP 兼アグリフィールズ合同会社 CEO 代表 古川 隆邦氏 2. 質疑応答	プラスチック廃棄物をリサイクルするビジネスを展開している会社をバーチャル訪問しました。参加者からは、一年間でリサイクルが可能な量やプラスチック廃棄物の洗浄過程、リサイクルできない素材等、具体的且つ技術的な質問から、起業時に大変であったこと、長期的なビジネス展望やプラスチック公害への影響等まで、幅広い質問が出され、参加者の関心の高さが伺えました。講師からは「努力して、いろいろなことに挑戦して成功と失敗を繰り返して、何かを与えられる人になってほしい」というメッセージが寄せられました。

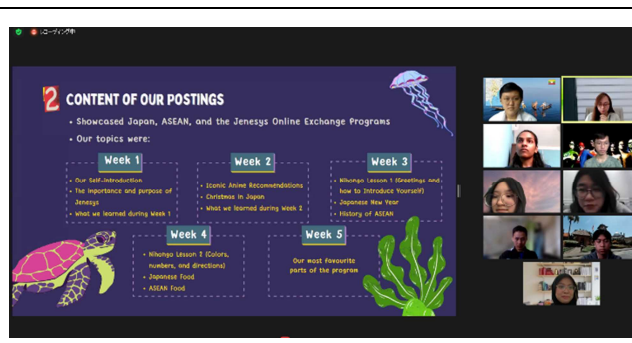
2022 年 1 月 7 日 東京都	【その他・文化交流】 参加者交流・オンライン文化祭 ※任意参加プログラム	参加者同士が文化交流する場として、お国自慢及び文化紹介を行いました。日本人の参加学生から、様々な文化が紹介され、ASEAN 等の参加者は大変楽しんでいました。
2022 年 1 月 10 日 東京都	【視察・質疑応答】 テーマ：連結性（EPA/TPP） 1. 視察 「Patimban Port Development Project」 講師：国際協力機構（JICA）インドネシア事務所 鈴木 秀幸氏 2. 質疑応答	質疑応答では、「新型コロナウイルス感染症により工期・完成に遅延が生じたか」「港で不法な密輸品の入国をどのように防ぐことができるか」といった具体的な質問が寄せられました。参加者からは、「地域の産業が繁栄するように海上能力を改善・保護することの重要性について理解できた」との声が聞かれました。
2022 年 1 月 11 日 東京都	【視察・質疑応答】 テーマ：海洋全般 視察先：東海大学海洋学部 齋藤寛海洋学部長他 4 名及び日本人大学生・留学生との交流	事前に受け付けた質問に関する回答を含めながら、大学の概要や研究内容について説明を受けました。海洋学部が教育・研究活動に使う船「望星丸」を使う教育プログラムやコロナ禍の影響、海洋汚染による海の絶滅危惧種への影響に対する対策、海洋災害に関する学部の有無など、幅広い質問が出されていました。また、同大学の学生と留学生から学校生活についての発表があり、日本の学生生活を知る良い機会となったようで、「日本への留学を真剣に考えたい」との声が聞かれました。
2022 年 1 月 13 日 東京都	【報告会】 1. 挨拶 ASEAN 日本政府代表部 児玉 良則次席公使 2. グループ別ビデオ発表 「プログラムで学んだことと今後の活用について」 3. グループ別プレゼンテーション 「情報発信回数と内容」「今後の協力関係促進について」 4. 講評	「海洋」「連結性」「法の支配」の 3 つから各グループ 1 つのテーマを選び、10 日間の中で得た学びの成果と今後の活動についてビデオとパワーポイントを使って発表をしました。どのグループも、多国から成るグループ活動の楽しさと、今後も協力関係を継続する重要性について強調していました。また、プログラムを通じて、小さなことの積み重ねが大きな成果につながることを実感したと述べた参加者が複数いたことが印象的でした。

2. 記録写真

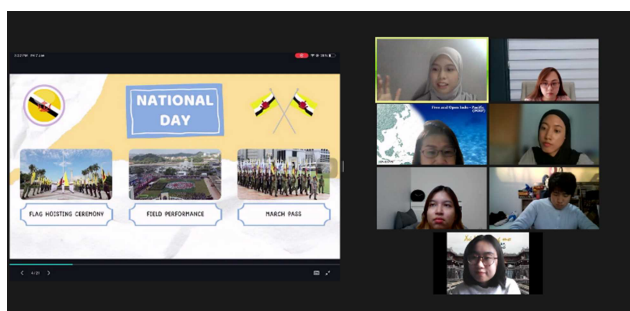
	
2021 年 12 月 10 日【ウェビナー・質疑応答】FOIP 及び AOIP の大枠、日本の活動に関する講義	2021 年 12 月 13 日【参加者発表】お揃いの背景で記念撮影をする様子（タイ）
	
2021 年 12 月 14 日【ウェビナー・質疑応答】講義の様子	2021 年 12 月 15 日【質疑応答】洋上の風力発電などの新技術に伴う負の側面の質疑応答する様子
	
2021 年 12 月 20 日【ウェビナー・質疑応答】投影資料に目を見張る参加者とコミュニケーションをとりながら講義を行う講師	2021 年 12 月 21 日【ウェビナー・質疑応答】国際協調ができない現状に対しての疑問について等の質疑応答の様子
	
2021 年 12 月 22 日【視察】自社内の工場にて、プラスチック再生・成形・製品化までの実演を行う講師	2022 年 1 月 10 日【視察】インドネシア・パティンバン港開発の状況をプレゼンする講師



2022 年 1 月 11 日【視察】海洋鉱物資源や人間社会と自然環境の共存について講義を行う講師



2022 年 1 月 13 日【報告会】SNS 投稿の活動などについて報告する参加者たち



2022 年 1 月 7 日【その他・文化交流】ブルネイの祝日について紹介する参加者と興味深く聴き入る他の参加者たちのようす。(任意参加イベントとして参加者同士が交流する場として、お国自慢・文化紹介する文化祭を設けた)



2022 年 1 月 7 日【その他・文化交流】あやとりをパフォーマンスする日本人参加者

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 東ティモール 大学生

今日、私たちは各国、特に東南アジア地域の国々で「海はそれぞれにとって何を意味しているか」について多くの興味深いことを学び、東南アジア地域の各国の海に関する興味深い事実を知ることができました。

◆ ミャンマー 高校卒業生

日本の海洋政策とは何か、そして日本政府がカーボンニュートラルプロジェクトをどのように計画しているかを学びました。すべての ASEAN 諸国は、特に汚染に関する環境問題を防ぐためにこのプロジェクトを実施する必要があると考えます。

◆ 日本 大学生

質問している方もいましたが、国際協力の必要性で、共存(coexistence)と協力(cooperation)が大事なのは、海が繋がっているからだということを改めて再認識しました。また、様々な問題は時代を追うごとに出てくるため、次世代の担い手となる若い世代が関心、及び高い意識を持って個々の事例を考えていかねばならないと考えさせられました。

◆ ラオス 参加学生

講師はインドネシアへの ODA や JICA について、港湾部門概要、パティンバン港建設に関し多くを話してくださいました。

非常に大規模で困難な工事であることやその目的等建設状況を目の当たりにしました。ビデオは様々な工程を示しており、事業の完成前後を見ることができました。

全ての工期を終えるのに 2 年から 4 年かかるというのは驚きでした。大規模で困難な工事なので成功するためには、それくらい待つ価値があるかと思います。この事業がどのような変化をもたらすか、どのように熱心に取り組んでいるかを満喫しました。素晴らしい時間でした。感謝しています。

◆ カンボジア 参加大学生

8 日目はこれまで（のプログラムの中でも）最高でした。リサイクル手法の代替案を垣間見ただけでなく、プレゼンテーションにも訪問企業の創業者である講師の人生と情熱が詰まっていました。今回は遠く離れたところからの参加でしたが、いつか是非、講師の企業へ訪問し、プラスチックのリサイクル活動に携わってみたいです。

◆ フィリピン 参加大学生

講師から非常に刺激を受けました。私は環境工学を学んでおり、廃棄プラスチックを別の形で利用することにより廃棄物の削減へ貢献するというアイデアに、インスピレーションを受けました。津屋崎ベースキャンプは素晴らしいです！

◆ フィリピン 参加大学生

古川氏の意思と決意、そしてリサイクル事業のプロセスや取り組みについて私達学生を導いてくれる生き生きとした態度を私は決して忘れません。彼の環境教育推進への取り組みは、私の目標と、今後私のコミュニティのために何をしたいのかを考えるきっかけになりました。

◆ フィリピン 参加大学生

港湾開発事業の説明は、インド太平洋地域の重要な分野である海運改善に関して様々な要素を考慮した大変興味深いモデルでした。貿易産業での海運を改善する上で、各国の将来の計画を先読みし、精査することが適切だと感じました。

◆ インドネシア 参加大学生

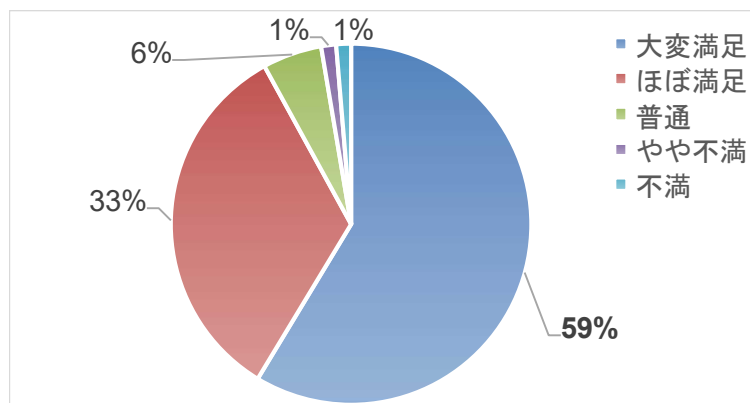
私の母国インドネシアにとって日本は重要な国であることに気づきました。日本はインドネシアに多くの投資機会を提供してきましたが、今回は西ジャワ州のパティンバン港の事例を学びました。この港は主要港であるジャカルタのタンジュンプリオク港を支える国の大規模開発事業のひとつです。そして、輸出、特に自動車産業の輸出を重視する国への舵きりを証明するものでもあります。日本とインドネシアがこのような温かい健全な関係を続けられることを望みます。

◆ マレーシア 参加大学生

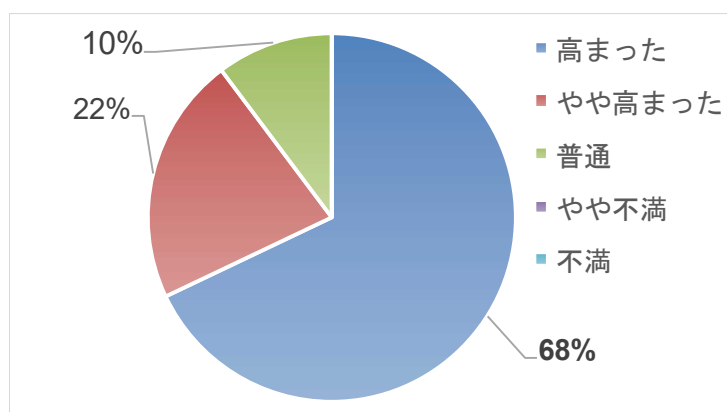
津屋崎ベースキャンプからの講義は、素晴らしく惹きつけられるものでした。廃棄プラスチック事業に刺激を受け鼓舞されました。そして、環境破壊の危機を防ぐためには、創造力及び自己の知識の両方を駆使することが大切だということを学びました。

◆ アンケート調査回答（抜粋）

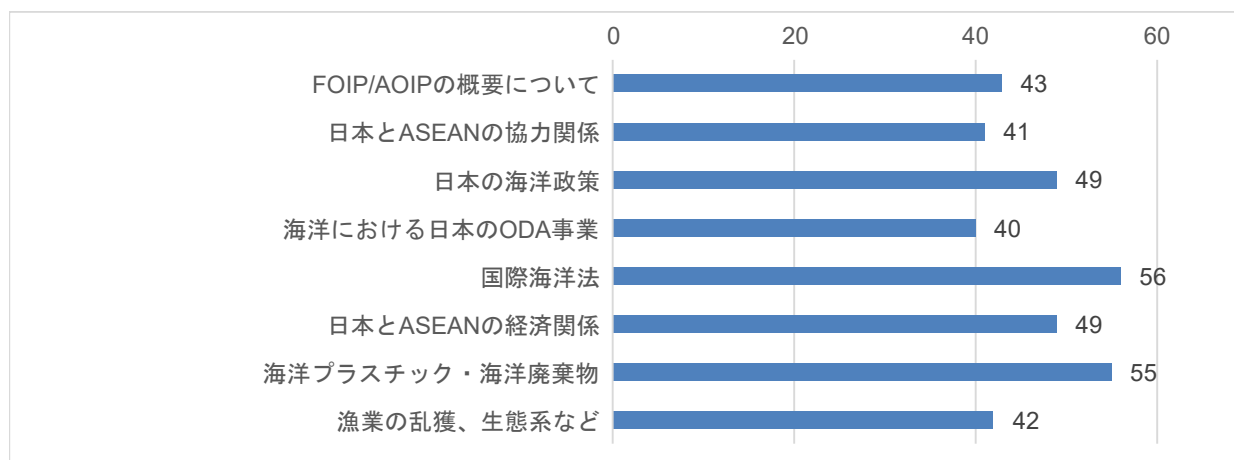
（１）今回のオンラインプログラムに満足しましたか？



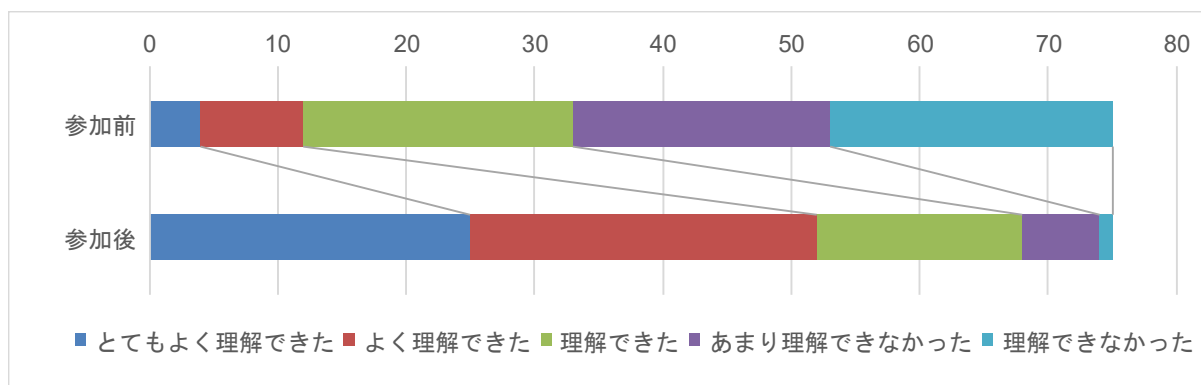
（２）このオンライン交流に参加し、訪日への期待は高まりましたか。



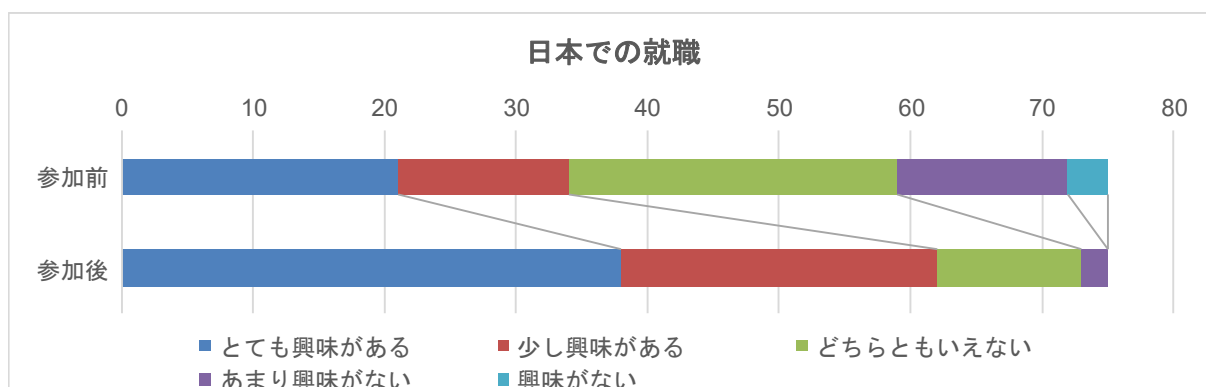
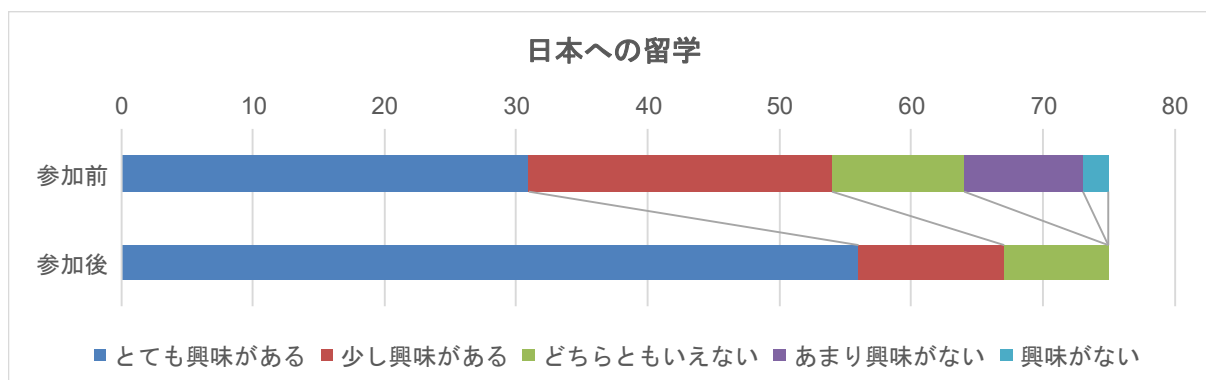
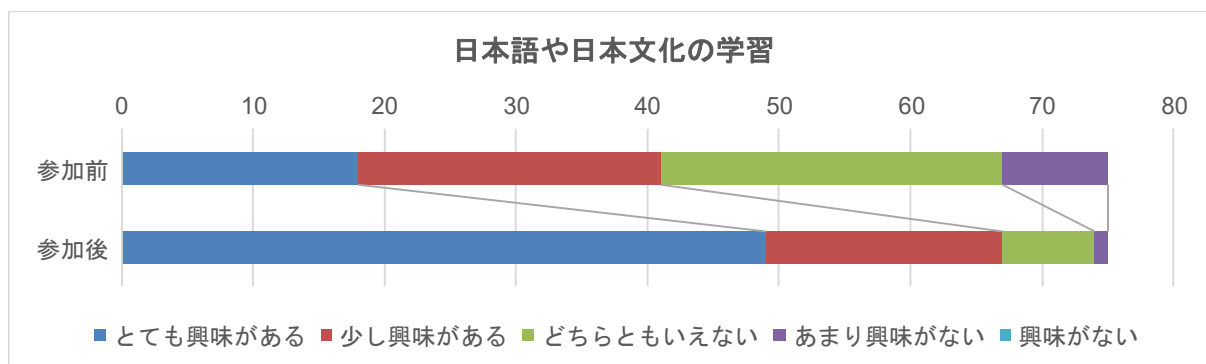
（３）今回のオンライン交流で印象に残った内容は何ですか。（複数選択可）



(4) プログラムに参加する前と後で、日本の外交政策についての理解はどのように変わりましたか。



(5) プログラムに参加する前と後で、日本に関する興味関心がどのように変わりましたか。



4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

意欲的な学生に多く触れ合う機会があり、大変満足しています。

◆ 講師

講義開始前のわずかな時間も使って JICE スタッフが参加者とコミュニケーションを図っていたのは、オンラインという制約がある中で色々と工夫されていると感じました。

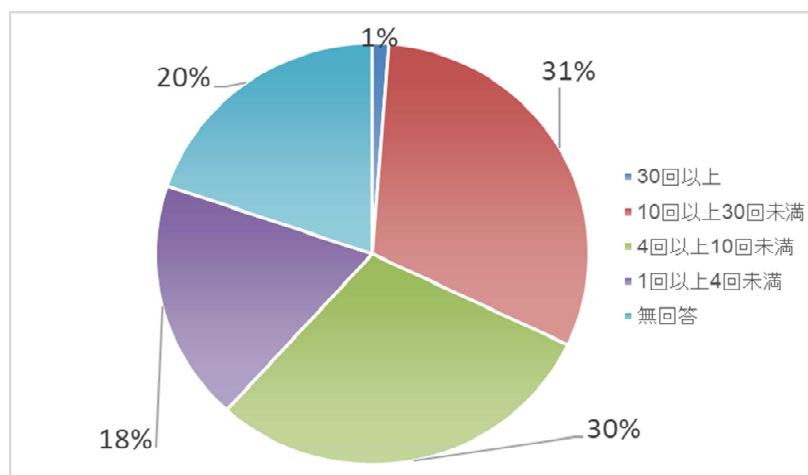
◆ 視察先

オンライン体験ツアーは複数回経験していますが、複数国の参加者に対応するよう翻訳&複数回線に慣れてなく、受講生のリアクションや表情を見ることができなかったのが残念です。参加者の反応を確認することができたら、更に良いパフォーマンスができたと思います。今後、改善していきたいと思います。前職で海外への提案をしていたことを活かし、英語で説明できるよう自分自身も勉強したいと思います。

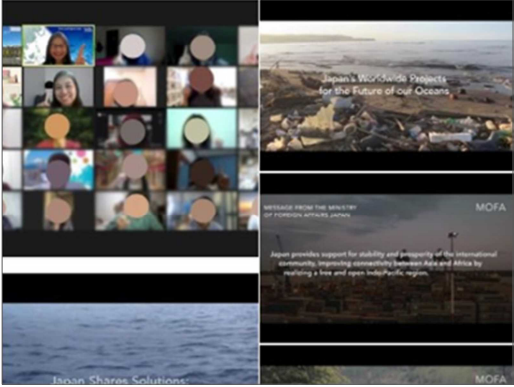
5. 参加者の対外発信

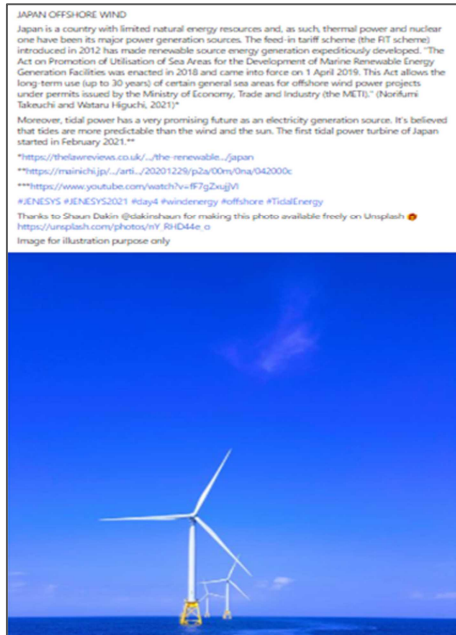
◆ アンケート調査回答（抜粋）

オンライン交流中または参加後に、プログラムへの参加の感想、日本の魅力や日本事情について SNS 等で何回発信を行いましたか。



5. 発信事例

Recently, I've got a great opportunity to be selected as a participant from Thailand to attend JENESYS Online Exchange Program (Theme:FOIP) and this is day one for meeting. With the schedule, I'm informed about Cooperation on the ASEAN Outlook on the Indo-Pacific (AOIP) by Mr. Hayashi Hiroaki (Principal Deputy Director, Regional Policy Division, Ministry of Foreign Affairs of Japan). This is such a great opportunity for me to see the real actions what the cooperation have done and understand more deeply that how this cooperation is important. Moreover, I also want to share with you that AOIP has 4 key areas including Maritime safety, Connectivity, SDGs, and Economic and other possible areas of cooperation. And I attached the youtube link if you want to see some cases that I learnt. Furthermore, there were 2 group works, one for Thai and one for different countries. We will also have a presentation for next meeting. So from now, my Thai group is working on it. Thanks to JICE, Mr.Hayashi, Thai group and my international group (I just named it XD). All of you are amazing. Love to know you all ❤️ Thank you for day one. #JENESYS The case: https://www.youtube.com/watch?v=M056gfuCQ8.. 	Thanks to JENESYS(Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths), we all get a chance to meet with people from different countries. Even though we all are having difficult time due to COVID 19 pandemic, the program try to promote the bonding between Japan and ASEAN and we all are grateful to be a part of it. 🙏 Day 1! 🎉 Today, we have learnt a lot especially the strong relationships between Japan and ASEAN have Japan and ASEAN (consisting of 10 South East Asian Nations) have built a cooperative partnership for peace and stability for over 50 years. Japan considers that a more closely integrated ASEAN functioning as a hub of regional cooperation is important for the stability and prosperity of all of East Asia countries. 🙏 We're here to learn, communicate, exchange our information regardless of ethnic backgrounds, religions, gender. Together we will learn more about AOIP and FOIP, what we can do to serve ASEAN nations for a better future. 🙏 
2021 年 12 月 10 日 (Facebook) 【初日の感想 (タイ参加者)】 タイの参加者として JENESYS のオンライン交流プログラム (テーマ : FOIP) に参加し、初日を迎えました。外務省アジア大洋州局地域政策参事官室首席事務官の林弘毅氏から、<u>ASEAN 諸国の AOIP (インド太平洋に関する ASEAN・アウトトルック) について学び、この協力がいかに重要であるかをより深く理解する素晴らしい機会となりました。</u> <u>AOIP には、海上安全、連結性、SDGs、経済およびその他の協力分野を含む 4 つの主要分野があることを皆さんにお伝えします。</u>そして、私が学んだ事例を見たい方は、YouTube のリンクを添付しましたのでご覧下さい。 さらに、タイの参加者と各国の参加者混成の 2 つのグループワークがありました。また、次回はプレゼンテーションを行います。私のグループは現在、プレゼンテーションの準備に取り組んでいます。	2021 年 12 月 14 日 (Facebook) 【初日の感想 (グループ 5)】 JENESYS のおかげで、さまざまな国の人々と出会う機会があります。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、皆が苦勞しています。ですが、本プログラムは日本と ASEAN の絆を深めることが目的であり、私たち全員が本プログラムの一員であることに感謝しています。 今日、私たちは日本と ASEAN 諸国の強力な関係について多くのことを学びました。<u>日本と ASEAN 諸国は 50 年以上にわたって平和と安定のための協力的パートナーシップを築いてきました。</u>日本は、<u>地域協力のハブとして機能し、緊密に統合している ASEAN 諸国</u>が、<u>東アジア諸国の安定と繁栄にとって重要であると考えています。</u> 私たちは、民族的背景、宗教、性別に関係なく、情報を得て、発信し、共有するために参加しています。一丸となって AOIP と FOIP について学びます。これは、より良い未来のために、そして ASEAN 諸国のために私たちができることです。

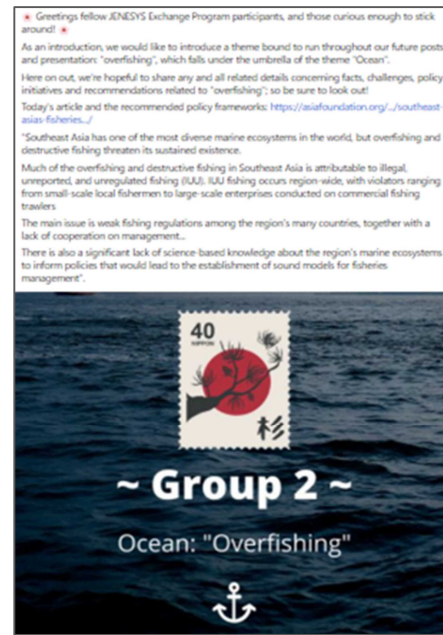


2021 年 12 月 15 日 (Facebook)

【4 日目の講義を受けて (日本の洋上風力)】

日本は自然エネルギー資源が限られている国であり、火力発電と原子力発電が主要な発電源となっています。2012 年に導入された固定価格買取制度 (FIT 制度) により、再生可能エネルギーの発電が発展しました。

また、潮力発電は発電源として将来的に非常に有望です。潮汐は風や太陽よりも予測可能であると考えられています。日本で最初の潮力タービンは 2021 年 2 月に始動しました。



2021 年 12 月 15 日 (Facebook)

【乱獲について (グループ 2)】

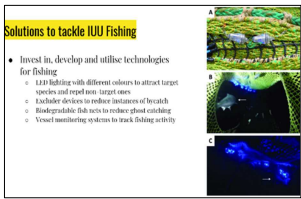
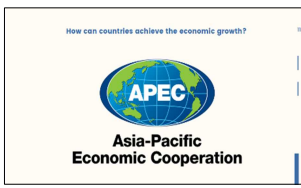
はじめに、今後の投稿やプレゼンテーションで私たちが扱うテーマ「乱獲」を紹介します。これは「海洋」というテーマの範疇にあります。

ここでは「乱獲」に関連する事実、課題、政策イニシアチブ、および推奨事項に関するすべての関連する詳細を共有したいと考えています。今日の記事と推奨される政策の枠組み：

東南アジアには世界で最も多様な海洋生態系の 1 つがありますが、乱獲と破壊的な漁業はその持続的な存在を脅かしています。東南アジアでの乱獲と破壊的漁業の多くは、違法、無報告、無規制で行われる漁業 (IUU 漁業) に起因しています。IUU 漁業は地域全体で行われており、違反を行う者は地元の小規模漁師から商業用トロール漁船で行われる大規模企業の関係者にまで及びます。

主な問題は、多くの国々の漁業規制の弱さと、管理に関する協力の欠如です。また、海洋生態系に関連する科学的根拠に基づく知識が大幅に不足しています。知識や情報を提供する政策が、漁業管理の健全なモデルの確立につながるでしょう。

6. 最終報告会でのアクション・プラン発表

Group 1	Group 2	Group 3	Group 4
			
Group 5	Group 6	Group 7	Group 8
			
Group 9	Group 10		
			

◆ 参加者の発表（抜粋）

- ・ 私たちは海に大きく依存していますが、今 IUU 漁業（違法・無報告・無規制漁業）による乱獲で海洋の生物多様性に影響が出て長期的な経済損失や環境破壊が心配され海の安全保障の脅威になっています。この問題解決のためには、海洋パトロール実施、国際的な基準の整備、保護区域の設置、開発途上国への支援など各国の協力が求められます。
- ・ SNS を活用して、私たちのグループは、プログラムからの学びや気づきだけでなく、日本と東南アジアの食文化、行事、日本語レッスン、お薦めアニメなどを発信してきました。今後もこのプログラムでの経験や JENESYS について発信し続けたいと思っています。
- ・ Connectivity にはインフラ投資、人材開発、貿易推進、文化交流等、様々な側面があることや Connectivity が国際政治や国際経済で中核となる役割を果たすことを学びました。
- ・ プログラムを通じて日本と東南アジアが海から多くの恩恵を受けていると改めて気づきました。貴重な観光資源でもある海が海洋プラスチック廃棄物や魚の乱獲など様々な危険にさらされていることを知り、協力して海洋環境保全のために行動を起こさなければいけないと思いました。
- ・ 各国の連携を強めるには外交レベル、NPO や NGO を中心とした市民レベル、学生交流や文化交流など様々な層での交流が必要ですが、若い私たちが主体的役割を果たしていく必要があると思いました。
- ・ 国の経済成長には各国間協力と連携が非常に重要であることや、RCEP の導入背景、重要性や目的もこの一環であることを学びました。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）